

## 平成28年度第7回景観審議会デザイン協議部会 会議要旨

### 1. 審議会（部会）の日時、場所、出席者、議事

(1) 開催日時 平成28年（2016年）10月20日（木） 午後2時00分～同4時45分

(2) 開催場所 宝塚市立男女共同参画センター 学習交流室 4

(3) 出席者

・ 景観審議会デザイン協議部会委員

徳尾野部会長、岩井委員、三谷委員、大平委員、盛田委員

・ 事務局（都市整備部 都市整備室 都市計画課）

坂井部長、山下室長、下野課長、志村係長、浜崎職員、山下職員

・ 事業者

議事① 事業者 阪急電鉄株式会社

設計者 株式会社日建設計

議事② 事業者 阪急電鉄株式会社

設計者 株式会社日建設計

(4) 議 事

議事① 宝塚立体駐車場新築工事（2回目）

議事② （仮称）宝塚ホテル建設計画

(5) 傍聴者

議事① 1名

議事② 1名

### 2. 会議の要旨

事務局： 本日の審議会（部会）は、委員5名の出席がありましたので、宝塚市景観審議会規則第6条第2項の規定により成立する旨を報告します。

会 長： 了解しました。審議を開始します。本日の署名委員は順番により、岩井委員と盛田委員です。

会 長： 景観審議会運営規程第3条第1項の規定に基づき、本日の議事は全て公開となっています。傍聴者があれば入室を承認しますが、傍聴者はいらっしゃいますか。

事務局： 1名いらっしゃいます。

会 長： 入室していただいでください。

☆☆☆★ 宝塚立体駐車場新築工事（2回目）☆☆☆☆

会 長： 今回の事業計画の概要は事務局から聞いていますので、委員よりご意見やご質問があればお願いします。

会 長： 外壁の色ですが、前回、大劇場とは使用材料が異なり、ALC 版を使用し、マンセル値が基準値内に収まっていなかったため、再検討をお願いしたのですが、今回提案された色彩は、少し緑っぽいのですが、これは、意図的にかなりグリーンがかかった黄色にされたのですか。

設計者： 今回の計画建物の前面に、大劇場前のエントランスゲートがあり、このエントランスゲートの色彩に合わせたかたちで、少し彩度を落とした色を使用する計画です。現在エントランスゲートで使用されている色が、グリーン of 要素があるクリーム色であるため、それに合わせた色にいたしました。

委 員： 色相が 8.8Y というのはもう少しで G になるので、純粋な黄色よりは緑がかってくると思いますが、それをあえて使用されるということですね。

設計者： 本日は、サンプルをお持ちしていますのでご覧いただければ、それほどグリーンではない事がお分かりいただけると思います。

委 員： 拝見しましたが、やはりグリーンに見えます。意図的にグリーンにされているということよろしいですか。

設計者： はい。グリーン of 要素は入っています。ただ、実際はサンプルよりも面が大きくなるので、白く明るく見えると思います。

委 員： 前回の協議で、計画建物は ALC 版を使用し、エントランスゲートと材質が異なるため、同じような色合いにした場合には、どうしても ALC 版の方が貧層に見えてしまうので、色彩について再検討していただきたいと申し上げたのですが、この色彩にされたのは、意図的に色相をずらされたのですか。

設計者： 色相をずらしたというよりは、彩度を落とし馴染むよう検討しました。大劇場も部分的にですが ALC 版を使用しており、場所によって凹凸のある箇所もありますが、遠目で見た時には一体として見えており、計画の色彩でも問題ないと判断しています。

委員： 色相が大きくずれたので、それを気にしているのですが、彩度を落とすことに注目されたということですね。

設計者： そうです。大劇場劇の壁面にもグリーンの要素が入っているので、今回この色彩にしました。

会長： 正面の壁面沿いのサクラについてですが、長大な壁面をブレイクダウンするためにサクラを配置されていますが、委員よりご意見をお願いします。

委員： 前回、正面のサクラについて検討をお願いしたと思うのですが、何も変更されていないのはなぜですか。

設計者： 東側の緑地についてのご指摘はあったと認識しておりますが、花の道沿いのサクラの配置については、大きなご指摘があったとは認識しておりませんでした。

委員： 前回の協議での緑に関する意見は、ピロティー奥の緑地への視線の抜けや、花の道との一体感といった大きな範囲の意見と、壁面の長大性をどう緩和するかという意見でしたが、壁面の長大性の緩和について特に変更はされていないということですね。

設計者： そうです。

委員： ランドスケープの専門の方も入った計画だと思いますが、特にサクラの配置のピッチが狭いのが気になります。これは、将来的に密になってきた場合には、木を抜いて調整されるという計画ですか。完成当初一番良い形で整備することを想定されているのですか。

設計者： 特に、現在計画しているサクラの本数を調整する予定はありません。サクラの配置計画については、地面の下に既存建物の地盤改良のコンクリートの塊が残る部分があるため、それを避けた位置で、立面的に見た時にバランスよく見えるよう配置しています。

委員： 当初は、ピロティー奥の緑地への人の誘導という意味で建物側にサクラを配置しているという印象がありましたが、なかなかそれも難しい状況ですし、

もう少しゆったりとサクラを植えるために、また、この部分をオープンスペースとして見せるためには、壁面に沿ってではなく、道路側へサクラを配置した方がよいと思いますので検討してください。具体的には、サクラは、10m間隔で4本ほどを道路側に植栽柵を設けて植え、建物際には計画どおり植栽帯に低木を植えるのが良いと思います。地面の下の障害物の状況にもよりますが、検討して頂きたいと思います。

事業者： 今回の建物も含めた駐車場の全体計画の中で、北東のバス駐車場から団体のお客様が大劇場へ向かわれる際に、この通路をまとまって通行されること想定しています。動線を考えた時に、敷地境界側に樹木を植えると通路の幅員の中央に樹木が配置されることになり、通行に支障をきたすと思います。我々としては、できるだけ幅員を大きくとりたいと考えており、樹木は建物側に寄せた配置計画としています。

委員： サークル状に植栽柵をとっても、道路側に植えるのは難しいですか。

事業者： 現計画でも、一部サークル状に飛び出した形で植柵を配置していますが、これも難しい状況です。植栽柵はできる限り小さくし、通路幅をできる限り広く確保したいというのが我々の思いです。

委員： 現在の計画では、建物に沿ってサークルが6つ配置されていますが、例えば、数を4つに減らし、道路側に設けてサクラを植えるというのはどうですか。

事業主： 道路境界沿いに配置すると、自己敷地と歩道とを合わせた通路の幅員の中央にサクラが配置されることになります。中央に樹木があると通行を阻害することになると思いますので、樹木は端に寄せる計画としています。

委員： 前回の協議でも申し上げましたが、計画のようにサクラが建物にぴったりくっついて配置されると、視線を誘導した先が解体後の建物の壁面に向かうと思います。また、6つのサークルを4つに減らせば、さほど通行の妨げにはならないと思うのですが。

事業主： 全体の幅員の中で、端に寄せるのと中央に配置するのでは、やはり、中央に配置する方が通行の妨げになると思います。

委員： 通路として、どれだけの幅員を設けなければならないという規定があるのですか。

設計者： 規定はありません。しかし、三人、四人で横になって歩かれる方もいらっしゃると思いますので、できるだけ幅員を確保したいという思いがあります。

委員： 幅員は、4m程は確保できると思いますし、通行にはさほど問題ではないと思います。

設計者： 西側は狭くなっていきますので、狭いところで4m確保するのは難しいと思います。

委員： 4本が無理なら3本でも構いません、とにかく道路沿いに植栽柵を設けてサクラを植えていただきたいということです。

設計者： 敷地境界に沿って樹木を植えるために本数を少なくすることと、建物に沿ってできるだけ多く樹木を植えることを比べた時に、境界側に植えた方が良いと言われているご意見の趣旨を教えてください。

委員： 現在の計画では、サクラと建物の間は1.5m程しかなく、将来サクラが成長した時のことを考えると、樹幹が4mから5mになるので、建物に沿わせて植えると、通常は外壁から2.5mから3m程度離して計画するべきだと思います。また、この計画のように植えた場合でも、結局道路側へ枝葉が伸びるので、通路の真ん中あたりまでサクラの枝が成長し、出てくることになります。その時に、樹形が悪いサクラが変に並ぶよりも道路側へ植えた方がいいのではないかと申し上げます。

設計者： サクラにとっては、建物から離して植えた方が良いとは思いますが、事業主のご要望もあって相談した結果、計画の位置であれば何とか根をはれ、成長には問題ないだろうと判断しています。ご指摘のように枝ばりは、前面へでてくる形にはなるとは思いますが、通路の幅員をできるだけ広く確保し、通行される方の安全性を優先したいとの考えでこの計画となっています。

委員： ご計画では、あまりにも建物の壁に近すぎるのでサクラが、思うように生育しないのではないかと心配しています。そもそも、この位置に樹木を植えていただきたい一番の理由は、長大な壁面に少し表情をつけて緩和するため

です。また、樹種についても、確かに、花の道の空間の連続性を考慮してサクラを植えるという考えは良いと思いますが、落葉樹ですので冬になり落葉してしまうと、長大な壁面が際立つこととなります。サクラばかりでなく常緑樹も配置した方が良いのではないですか。

委員： 長大な壁面の緩和については、建物のデザイン等で工夫していただいてもいいのですが、色々あり、ご計画の外観とされているので、植栽計画を工夫することで、緩和の方法を検討して頂く方法もあります。という趣旨で意見を申し上げております。

委員： もう少し建物外観に費用を掛け、外壁を印象的にできるのであれば、建物の壁面に沿ってサクラを植える必要もないと思います。しかし、それは難しいため、植栽を活かして外観の印象を優しくする計画とされていますので、冬になって落葉してしまったら意味がないのではないかと思います。樹木を全てサクラにするのではなく、少し常緑の樹種も入れた方が良いのではないかと思います。

委員： 例えば今は、サクラを 6 本植えているのですがサクラは半分に減らし、その間に株立ちのシマトネリコなどを 2 株植えると表情が出て、良くなると思います。また、既存建物の解体後の妻側の壁面に緑を配置するのは難しいですか。

事業主： 既存建物の用途については、まだ決まってはいるのですが、営業的なものをする可能性もあります。その場合には、妻側に扉を設ける可能性がありますので、樹木を植えるのは難しいです。

会長： 今回の議論の決断を今ここではできないと思います。このような強い意見があるということを踏まえて、設計者と事業者で判断していただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

会長： 次に、東側の庭園の計画ですが、前はサークル状に樹木を配置されたりしていましたが、今回、非常にシンプルな計画に変更されたようですが、今回の計画で緑に塗られている部分は、具体的にどのような計画に変更されたのですか。

設計者： 基本的には、ほとんどの部分に低木を植え、部分部分に高木を植える予定

です。

委員： 観賞用の庭園になるということですか。

設計者： そうです。

委員： 低木というのは、樹木を植えるのですか。樹林のようなイメージですか。

設計者： 樹林というほどのものではなく、見通しの効く高さの、ツツジやヒイラギナンテン、ユキヤナギなどの低木を織り交ぜて植える予定です。緑をたっぷり設ける予定です。

委員： 参考までに教えて欲しいのですが、この緑地スペースを将来的に何か別の用途に使うという考えがあるのですか。

設計者： そのような計画はありません。団体用のバスの駐車場と大劇場とを結ぶルートについては、なるべくシンプルに最短で繋げたいという意図があります。車路などは現状から大きく変更しないので、完成後の違和感もないと思います。

委員： 庭園の横の歩行者用通路の幅はどのくらいありますか。

設計者： 歩道が約 2m、車道が約 3.5mです。この部分は基本的に既存のスロープ等をそのまま使用しますので、今回大きな造成は行いません。歩道と車道との間には、歩行者の安全確保のために横断防止柵を設置しています。

設計者： 補足ですが、ホテル建設中は、北側の平面駐車場を大型バスの駐車場として使用しますので、東側の車道は通行禁止とする予定です。その間は約 7mの通路を歩行者用通路として使用し、ホテル完成後、安全柵を設置する計画です。

委員： 車歩道は、もう少し北側に移動させることはできませんか。

設計者： スロープ等は現況のまま使用する計画ですので、通路の変更は難しいです。

委員： 通路部分は、なるべく既存のまま使用したいとの考えはわかりました。前

回の協議で、緑地部分のコンセプトを明確にして下さいと伝えたのですが、コンセプトを教えてください。景観的な配慮や、散策ができるなどの歩行者への配慮はどのような計画となっているのか説明をお願いします。

事業者： コンセプトは、できるだけ最短距離でシンプルに大劇場へのルートを確認することです。

設計者： 事業主からのご要望もあり、なるべく緑を多く植えるよう計画しています。また、サクラを配置し、季節ごとに楽しめる花の咲く低木を配置し、通路を通る際に歩行者に楽しんでいただけるよう計画しています。

委員： 花の道は距離が長いですが、なぜ飽きずに楽しく通行でき、心地よい空間とを感じるのかは、植栽帯が所々入り組んでおり、30m置きに滞留するスペースを設けてあり、サクラも直線的な配置ではなく、緩やかなカーブで配置されているからです。例えば、花の道のように植栽帯を入り組ませ、30メートル置きに窪みを配置し、滞留できるスペースや子供も遊べるような広場を設けて、緑地を楽しめるようベンチを置くなど、通行者が緑を楽しむ視点を3箇所くらい設けると良いと思います。花の道から直接アクセスできれば一番良いのですが、それが難しいのであれば、滞留スペースを設けるなど、歩行者への配慮を検討してください。

また、低木をこれほど広大な面積で植えるのであれば管理用の通路が必要です。また、管理が難しい低木も多いので管理を怠ると見苦しくなりますし、防犯上も問題があると思います。一部でもよいので、芝生を検討されてはどうかと思います。年2回か3回ほどのメンテナンスは必要ですが、低木よりも管理しやすいと思いますので、スロープに近い部分で検討すると、見通しもよくなり、管理上も防犯上も良いと思います。

委員： パースを見ると、計画されている屋根の瓦は硬い同色の焼き締めではなく、だいぶ揺れがあるものになっているように見えます。揺れがある方がとても綺麗ですので、このイメージのものを使っていたきたいと思います。そうすることで、長大な壁面が少し和らぐと思います。

事業者： 現在の計画では、素焼き、もしくは素焼き調の瓦を使用する予定です。素焼きですので、工場によって焼き具合も変わるので、色は全く均一になることはないと思います。ご意見を踏まえたうえで、事業主と相談しながら慎重に決めていきたいと思います。

委員： 既存建物は、現在はフェンスなどがあり花の道から直接アプローチすることはできないのですが、花の道から直接店舗へ入れるようにはならないのですか。

事業者： 既存の建物には物販等は計画しておりません。一部育児所がありますが、基本的には一般の方が使用するような施設ではありませんので、花の道からのアプローチは考えておりません。

委員： 既存の建物は花の道からは閉ざされており、中の様子もあまり見えないので、寂しげで殺風景に感じますので、改善して頂きたいと思います。

事業者： 建物の西側部分は解体してなくなり歩道が拡幅され広い空間ができますので、明るい雰囲気になると思います。

委員： 解体せず残る部分は、建物には手を入れずそのままになるのですか。

事業者： 解体部分以外は基本的に触らずそのまま使用する予定です。

会長： それでは、いろいろな意見がでましたが、ご検討頂きたいと思います。議事1については、これで協議を終了とします。

☆☆☆☆ (仮称) 宝塚ホテル建設計画 ☆☆☆☆☆

会長： 議事2について協議を始めます。計画概要につきましては事務局より説明がありましたので、各委員より質問させていただきます。

委員： まず、ご計画の色彩について確認させてください。資料に色相についての記載がありませんので、ご計画の色相を教えてください。

設計者： まだ仮決めの段階ですが、屋根の色相は、9Rから10Rの間、外壁の吹き付け材の色相は、4Yから5Yの間の色相を検討しています。

委員： 屋根の色はやや紅色ですね。

設計者： 我々も現ホテルは紅のイメージがあったのですが、間近で見ると若干茶色っぽい部分もあり、色相については検討中です。

委員： 検討中とのことですが、大劇場のようにオレンジ系の赤ではないということですね。大劇場よりは少し紅がかっているということですね。

設計者： そうです。パースでも大劇場とは少し色の違いを表現しています。劇場と比べると、やや赤みのある瓦を使用する予定です。

委員： 外壁は現在のホテルに沿わした形で、大劇場よりも白味のある色を計画されているのですか。この辺りはクリーム色の外壁が多いですが、ホテルが一番白い建物でそびえる形になると思いますが、これは、この地区全体を意識してそうされるのですか。この地域の中でホテルが一番白くなることは認識されていますか。

設計者： 他との調和も考慮しています。吹き付け材を使用し素材を合わせたりすることでの調和は考えていますが、色彩については現在のホテルの色彩をできる限り踏襲したいという考えです。

委員： 今のホテルを踏襲するという考えは理解できますが、この場所に持ってきた時に、大劇場よりもホテルが白くそびえていいのだろうかという印象、疑問を持ちます。たぶん個人的な印象ではなく、宝塚市民がみなさんそういったイメージを持つと思います。白亜の殿堂になってしまうのがホテルでいいのだろうかという疑問を持ちます。このことを理解できる論が必要であると思います。現在のホテルに合わせて色彩を決めたという理由だけではなく、理解できる論が必要だと第三者的には思います。

現ホテルとは、規模も違いますし、周りからの開放度も違いますので、正解はないのかもしれませんが、既存をなぜ持ってきたのかについての説明が必要です。また、この場所での周囲との関係についても明確な論が必要だと思います。この新しい場所での計画で、周囲に既に多くの建物が建ち並ぶ中で、最後に建つものとして、理由づけのようなこじつけではなく、こう考えましたという設計者としての思いが必要だと思います。色彩については現ホテルを踏襲しています。というだけでは受け止めにくい部分があるように思います。みんなが解り良い説明が必要だと思いますので、ご検討ください。

委員： 配置計画については、客室部分をH型としているプランは、周囲にもうまく馴染んでいて良いと思いますが、検討をお願いした点がいくつかあります。

一つ目は、ホテルは劇場とは異なり、一般のお客様にも開かれた施設、歌劇に関係のない方も利用する施設であると思います。この場所に移転したからといって、このホテルが歌劇専用のホテルになるわけではないと思います。花の道を歩いていると、色々な店舗があり、とても良い雰囲気です。道と施設が繋がっています。この計画は、宮殿のようで、寄り付きにくく、閉鎖的な印象を受けます。花の道は歌劇を含めたみんなの街であるはずなのに、ホテルが閉鎖的なのは気になる点ですので再考頂きたいと思います。

二つ目は、花の道と直接行き来できるような関わり方ができれば良いと思いますが、それが難しいのであれば、客室棟の先端部分が重要になると思います。現在は無記名の部屋が配置され、バックスペースのように思われます。花の道から直接入れないのであれば、せめて花の道に面する部分は、ホテルのアクティビティーが感じられるようなつくりにして欲しいと思います。

三点目は、花の道も大切ですが、宝塚では河川敷広場も重要であると思います。大劇場も河川側へは直接行き来できませんが、ホテルも河川側に閉ざされた計画となっています。ぐるっと回らなければ河川へは寄り付かないような宮殿のような計画ではなく、河川から花の道へ通り抜けできるように配慮して頂きたいと思います。景観はまちづくりと非常に密接な関係にありますので、河川にも開かれた計画として頂きたいと思います。

四点目は、花の道に沿って設けられる回廊です。事業主さんのご意向かもしれませんが、傘なしで大劇場へ向かう為に屋根を設けられているのだと思います。お気持ちは解りますが、せっかくの施設が台無しだと思います。雨の日は傘をさしてもいいのではないのでしょうか。設計者さんの意図ではないかもしれませんが、事業主さんとよく協議されたうえで再検討をお願いします。景観の観点では、屋根は設置されない方がよいと思います。また、歌劇専用のホテルではなく、街に開かれたホテルにして欲しいと思います。

五点目ですが、植栽がとても少なく寂しい計画となっています。これだけの施設に対し、植栽は本当にこれだけで良いのでしょうか。再検討して頂きたいと思います。

設計者： 一点目の入口は一か所だけでよいのかとのご意見ですが、北側に歩行者用の玄関、南側に車でお越しのお客様用の車寄せをもうけています。南北2箇所に入りを設け、どちらの面も正面として設計しております。また、歩行者が利用される北側の花の道に面する出入口は、前庭の両サイドも回り込んで

出入りできるよう設計しております。出入口は2箇所ですが、街に対して開くという意味では、外構計画を工夫しています。

二点目ですが、ウイングの東側には売店を設けています。この部分は、花の道からも見えるような設えを考えています。また、売店の右側のスペースは、バックヤードではなく、テナントを検討しています。このテナント予定部分へは、直接出入りできるよう階段と扉を設置しています。また、西側はホワイトエになっております。この部分にも花の道に面して扉を一箇所設けています。主に出口として使用するために扉を設置しています。宴会場からお帰りの際に利用して頂く出口として使用することを想定しています。

三点目の河川との繋がりについてのご意見ですが、河川側は車道になっております。ホテル東側の駐車場は、歌劇場のお客様用の駐車場として計画しており、バスと普通車が兼用することになります。公演の前後の時間に大型バスが最大30台出入りする予定ですので、安全面から一般のお客様が自由に河川へ出入りすることは難しいと考えております。ただし、一箇所のみですが、車寄せの横、東側に河川へ出られるよう扉を設置しています。また、敷地の東側の部分ですが、河川へ出られる既存のスロープがありますので、これはこのまま残す計画としておりますので、河川へ直接出入りできる部分としては2箇所あります。

委員： 運用の仕方はあると思いますが、出入りできる部分を設けているのと設けていないのとでは大差があると思います。また、今回造られる扉については、片開きの扉ではなく、せめて両開きとして川へも開かれた計画として頂くようお願いいたします。

事業主： 四点目の回廊については、歌劇のオフィシャルホテルとして、大劇場との連携をとるために敷地内に1,800mmの通路を設けています。この部分に屋根を掛ける予定です。また、電車で来られるお客様も通る部分になりますので、歩道の拡幅も行い、観劇客のアプローチ動線を確保しています。

事業主： ご意見を踏まえて検討いたします。

委員： 回廊のレベルは、歩道のレベルと同じですか。

設計者： 同じです。

委員： 植栽計画についてですが、少なく感じますが基準は満足しているのですか。

設計者： 緑視率、緑地率共に必要量は確保した計画です。

委員： 河川との関係性について、緑と共に河川へのアクセスができれば尚良いと思いますので、是非ご検討頂きたいと思います。バウホールと駐車場の間の通路部分は、バウホールの建物の曲線に合わせるように、一部身障者用駐車場を削るなどして、カーブを取りながら緑地を設けて川へ出るアクセスを考えて頂くと良くなると思います。

設計者： 駐車場とバウホール側はレベル差があるため、スロープで解消していますが、ご意見を頂いた部分は高低差が大きいので、カーブを設けた通路を作ろうとすると大がかりな工事になります。バウホール側には既存のクスノキがあり、それらは残す計画ですし、その部分を通して河川側へ抜ける動線は現計画でも確保できていますので、大がかりな工事は避けたいと考えています。

委員： 建物に近接してL型に通路が設けられているので、もう少し曲線をとって川へ向かう通路を検討して頂きたいと思います。

設計者： ご指摘の件は現在検討中です。もう少し人の流れを導くようなものを検討していきます。

委員： 駐車場東側の樹種は何になりますか。

設計者： シマトネリコを計画しています。

委員： この辺りはどのような景観を計画されていますか。

設計者： この近くには既存のクスノキがありますので、これはレンガの少し立ち上った植栽柵になっていますので、同じような植栽柵を設ける予定です。樹種については、常緑の樹種を配置し、少しでも駐車場の印象が緩和できるよう計画しています。既存と同じクスノキを使用するか、シマトネリコを使用するかは検討しています。

委員： この部分の舗装はどのような計画ですか。

設計者： 既存と同系色のカラーアスファルトを計画しています。

委員： この辺りは、直線的にシマトネリコが植栽柵にあってもあまり面白くないように思います。駐車場を優しく見せるという意味では、駐車場側に植栽柵を設け、サークル状の植栽柵にはサクラを植えた方がアイスポットになると思います。特徴的な樹種を選ばれた方が、川と花の道が一体に感じられると思います。また、植栽柵を直線的に並べるよりも、バウホールの曲線に合わせてサークルを置くか、又は、ランダムにサークルを置くと、人の流れができると思います。その方がデザイン的にも優しくなりますし、人に対しても優しくなり、川との連続性も出てくると思います。また、既存のスロープの横にシンボツリー的な緑を配置し、アイスポットを設けることで、ここから河川へ降りられるのだとわかりますので良いと思います。歩行者目線でも重要な部分になると思いますので、是非ご検討願います。

設計者： 検討します。

委員： 計画建物は阪神間モダニズムということで特徴的な外観とされています。宝塚の景観、歴史について考えた時、計画のようなフランス式庭園はあまりありません。日本のお屋敷の緑の中に洋館が建っているというのが、古くからある宝塚の魅力なのではないかと思います。また、武庫川沿いの景観としてもクロマツがあり、お屋敷があるというのが、川沿いを形成してきた昔からの景観だと思います。

例えば、南側エントランスにオリーブを配置していますが、オリーブは昔からある樹種ではありませんので、できれば在来種か、昔から親しまれている樹種を選定された方が良いと思います。

また、北側エントランスに、コニファー類レイランディを四角く列状に等間隔に配置しています。人を誘導するという意味があるかもしれませんが、芝生はもっと開放された方がよいのではないのでしょうか。今の幾何学的な配置ですと視線を遮ることになりますので、それよりは宝塚の歴史を考慮し、カイヅカイブキを建物の脇を締めるような形で配置された方が良いと思います。等間隔に列状に並べるよりも、密にならない程度にカイヅカイブキを自然樹形で配置した方が良いと思います。

設計者： 等間隔に並べない方が良い理由をもう一度お願いします。

委員： 日本庭園からの流れで自然的な庭園、自然的な樹木の中に洋風の建物があるというのが昔からの宝塚の魅力だと捉えています。等間隔の幾何学的な三角のコニファーではなく、自然樹形のカイヅカで建物の脇を締める方が宝塚

に合うと考えます。等間隔に植えているのは人の流れを誘導する意図があり、そのように並べているのですか。

設計者： カイツカイブキなどでも代替できるかと思しますので検討します。構成の考え方は、ご意見のような考え方もあると思いますが、全体の自然な中に建物が建っているというのは一つあると思います。今回の計画では、前庭として形のベースがありますので、ここにランダムに配置するのか、もしくは、幾何学に配置するのかは、もう少し違うベースだと考えています。この部分はメインエントランスですので、正面として、前庭として形を造るということで、このような計画となっています。ご意見を頂いたことも含めて再度検討したいとは思っています。

委員： 趣味の問題もありますし、建物の風格ということもあると思いますが、幾何学で線対称なデザインですと、花の道からアプローチした時に、ここだけ違う空間に感じると思います。それよりは、線対称であつてもいいと思いますが、少し自然なボリュームの樹木がある方が親しみやすいと思います。せっかく芝生も貼っているのに、芝生を囲うように樹木を配置されているのも勿体ないと思います。芝生に人が自由に出入りできることは想定されていないのかもしれませんが、例えば、結婚式の後にこのスペースで写真を撮ることなども考慮して、もう少し少し開けた庭として計画されてもよいのではないかと思います。コニファーではなく、カイツカのような自然な樹形とするだけでも大分雰囲気は変わると思います。風格を気にするのであれば、コニファーでは逆に品位が落ちるようなも思いますので、是非一度ご検討ください。

また、河川側の植栽ですが、サクラしか配置されていませんので、冬には寂しく映ると思います。武庫川の歴史を考えると、例えば、ソメイヨシノを等間隔に植え、その間にクロマツを2本、3本リズムを持たせて植えると宝塚らしい景観になると思います。また、それがホテルのイメージにそぐわないのであれば、個性が少ないシラカシなどの常緑をサクラの間にリズムカルに植えることを検討されると良いと思います。

委員： 現在の宝塚ホテルのモチーフなどを継承して頂きありがたく思いますし、宝塚のシンボリックなものが残ることは大変うれしく思います。ただ、エレベーションで見た時に、もっとすっきりとした印象になるようブラッシュアップして、現在の宝塚ホテルの踏襲ということだけではなく、これから未来も見据えてエレベーションを再考された方が良いと思います。個人的な感覚かもしれませんが、屋根の赤と壁面の白との割合、また、壁の装飾の凹凸のボ

リウムなどを、もう少し検討して頂くと、バランスの良いすっきりとしたデザインになると思います。

委員： また、鉄骨造の回廊のデザインですが、このホテルの外観にはふさわしいとは思えません。デザイン性がなくバス停のような印象を受けます。コストパフォーマンスも理解できますが、多くの女の人が通る部分です。景観上は設置しない方が良いと思いますが、どうしても設置するのであれば、もう少し優しいデザインを検討して頂きたいと思います。

設計者： 検討します。

委員： 現在のホテルの良さ、親しみやすさ等は、是非残して欲しいと思います。身近に感じられるホテルにして頂きたいと思います。

委員： 河川側からの見え方が気になります。河川敷を歩いている歩行者からはどのように建物の足元が見えるのかがわかりません。ソメイヨシノを植えられています、その奥はすぐ車路になっていて、スロープもあり、河川との高低差が大きい部分もあるように思います。図面では解りにくい部分ですので、河川を通行する人の目線ではどのように見えるのか、断面図を提出して頂きたいと思います。

委員： 確認ですが、花の道からは直接アプローチできる計画ですか。

設計者： 花の道は一段高くなっていますので、直接は入れません。花の道に面する歩道から直接ホテルへアプローチできるよう計画しています。

委員： 西側の道路からのアプローチはどのようになりますか。今現在は大きなクスノキがあつと思います。

設計者： クスノキは撤去しないとバスの回転軌跡が確保できません。その部分にゲート棟を建設します。高さは 8.5m 程度、ゲート部分は 5.5m 程度のゲートを設ける計画です。

委員： 宝塚ホテルは、クスノキのイメージがとても強いです。今回のご計画では、シンボルツリーは計画されていないのですか。

事業主： メインエントランスにシマトネリコがあります。

委員： 宝塚ホテルイコールクスノキのイメージがあります。シンボルツリーとしてクスノキを再検討して頂きたいと思います。入口に立派な樹木があることは、それだけでとても惹きつけられます。是非ご検討願います。

委員： 現在のホテルの良さは、街に開かれてとても優しいイメージです。提供されているレストランの食事なども、他のホテルと比べるととても優しいと感じます。この優しい雰囲気、ビジュアル的にも表現して頂きたいと思います。先ほどの植栽の意見でもありましたが、あまりにもシンメトリーな部分が多く、堅苦しく感じます。クスノキも再検討して頂き、柔らかい印象がにじみ出るような工夫をお願いします。

委員： 先ほども意見がありましたが、武庫川の風景としてクロマツが見えるというのは、宝塚らしい風景です。対岸から見ると、お屋敷とクロマツが見える景観が宝塚らしい景観ですので、武庫川沿いでデザイン協議を行う際には、これまでも河川側にクロマツを植えて頂くよう強く要望してきた経緯があります。是非クロマツを検討してください。

会長： 色々な意見が出ましたが、意見を取り入れて頂き再考をお願いいたします。色彩や植栽など色々な意見が出ましたので、整理していただき、次回再度協議部会に出席して頂くようお願いいたします。また、外壁のサンプルを次回の協議の際にご用意していただくようお願いいたします。

議事2については、これで協議を終了とします。